徳島科学技術高校

国類型：専門高校における産業人材育成の充実強化

令和8年度9月補正予算額 223,055千円（事業計画額18.7億円）

学校全体の方向性

県内の工業人材不足に対応するため、AI・ロボットを利活用した生産性の高い人材育成に向け、将来の工業高校をリードする学校となる。また、小中学校や企業、地域との連携等により専門高校への関心、地元企業への就職率を高める学校となる。

（主な取組内容）・ロボットづくりを中心に、高度先端機器による実習や企業との連携を通じて、技術水準と課題解決力を向上
・AIの活用方法やデータ分析の学習を通じて、AI活用人材を育成
・バッテリーバレイ構想と連動し、産学連携による小学生向け出前授業や蓄電池の専門講座・実地研修を通じて人材を育成
・小中学生向けのモノづくり体験やプログラミング教育等、工業高校志願者拡大のための活動や魅力発信を実施

主な施設と具体的な学習内容

実習棟（イノベーションラボ） 新設

レーザー加工機等の**金属加工機器**や3Dスキャナー等の**分析・測定機器**、**協働ロボットを整備**。ロボットや蓄電池等の基礎理論から制御・分析・加工・実装までを幅広く学べ、企業・小中学校との**協働試作スペース**としても活用。



海洋環境実習室 改修

水槽を整備し、従来の規模を超える大型魚の養殖を実現。
さらに、AIやデータ分析によって最適な飼育環境や給餌量を自動制御する最新の**陸上養殖システム**を実践的に学習する。

土質実習室・デザイン実習室 改修

土やコンクリート等の技術実習を行う土質実習室を改修するとともに、**新たな電子機器を導入**し、**AI・DX対応**を図る。
また、デザイン実習室では小物づくりやAI、ロボットデザインに対応する**電子機器を追加配置**し、レイアウト変更・内装の魅力化（特に女子生徒向け）等を行う。

協力校

阿南光高校（工業）、つるぎ高校（工業）、
徳島市内小中学校

徳島商業高校

国類型：専門高校における産業人材育成の充実強化

学校全体の方向性

令和8年度9月補正予算額 110,071千円（事業計画額14.5億円）

従来の資格取得や知識・技術の習得にとどまらず、学んだ知識を実社会で活かし、本県の産業振興や企業の経営課題を解決できる「高度なビジネス現場人材」を育成し、未来の商業高校をリードする学校となる。

（主な取組内容）

・商業教育の実践分野として7分野（地域、グローバル、スポーツ、アート、環境、防災・減災、ファイナンス）を位置づけ、AI活用やデータ分析、企業等の外部人材との連携により、ビジネス的観点から地域課題を解決する、探究教育を推進

・設置している2つの科（ビジネス探究・ビジネス創造）の特色を生かし、探究以外の科目の中でも実践的な学びの深化を図る

例）インバウンド観光客をターゲットとしたプロモーション、プロスポーツチームと連携したファンマーケティング

中小企業の経営改善計画の立案と提案等

主な施設と具体的な学習内容

図書館兼実習棟（TCSイノベーションズ・コモンズ） 新設

既存の情報図書会館を解体し、**図書館兼実習棟を新設**。

・生徒が主体的に議論や調査・分析を行う多目的な**図書室**

・約200人が収容でき、外部人材による講義や中学生、地域との協働、研究発表を行う**ホール**

・3Dプリンタ等を配置しアイデアを形にできる**実習室**



パソコン実習室 改修

既存施設（情報図書会館）内のパソコン実習室およびサーバー室を**本館に移設・改修**。授業での利便性を向上させる。

施設内での具体的な活動

企業、観光関係者、大学、専門家、海外連携先等と協働しながら、ホール及び図書室を活用して課題発見・企画・発信を、実習室を活用して試作・実証・改善を一体的に行う。

また、ホールにおいて、中学生等向けの体験プログラム、公開プレゼン等を実施し、地域にも広く開かれた「商業教育の拠点」として機能させる。

協力校

小松島西高校（商業）、富岡東高校（商業）、海部高校（商業）、吉野川高校（商業）、つるぎ高校（商業）

脇町高校　国類型：普通科高校における理数系人材育成支援

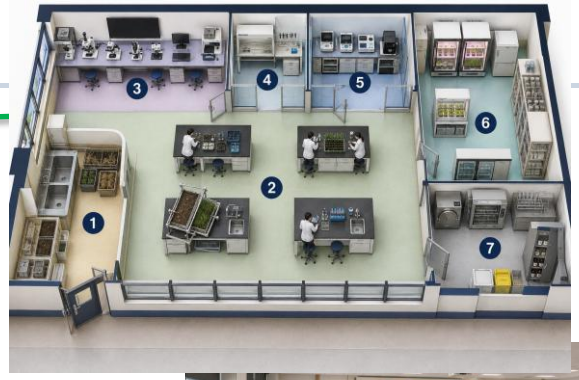
令和8年度9月補正予算額 106,027千円（事業計画額15.8億円）

学校全体の方向性

国が、理系人材育成へと舵を切る中で、普通科高校においても、理系人材を育成できるような教育プログラム構築、環境整備を行う。特に、女子生徒の多様な理工・情報系等への進路選択を促進する「理系人材の育成拠点」を目指す。

（主な取組内容）・新たな学校設定科目「にし阿波共創」を設置し、課題設定（にし阿波の傾斜地農耕システム等を題材）から、外部団体との連携、データ分析やAIの活用を通して、課題解決の社会実装までを目指した協働探究を実施
・県内外の大学や企業等と連携した高度な理数教育に係る授業や協働探究の実施
・外部の女性研究者等との協働を通じた理系女子人材の育成

主な施設と具体的な学習内容



理科実験棟（西館サイエンスハブ）　新設

生物・地学研究のための実習施設。既存設備では対応できなかった、厳密な条件下での**生育実験**や土壌・細菌の**データ解析**に対応。（既存の駐輪施設を解体し新設）

理科実験棟（北館サイエンスハブ）　改修

既存の実験室等に**高度な分析機器やドローンを導入**し、それらが使いやすいようなレイアウトに改修。また、VR／AR機器やビッグデータ等を扱えるデータサイエンスルーム、常時大学や企業等とのオンライン接続が可能なプロジェクトルームを整備。



実証店舗兼協働スペース（コンビニラボ＆オープンコモンズ）　改修

校内に県下初の実証店舗を整備し、購買データ等の**データ収集・需要予測や商品開発等の実証**を行う。また、地域住民や大学、企業、小中学生と協働が可能なスペースを設置。

職員室（シームレスルーム化）　改修

県内の学校では初となる職員室のシームレス化を実施。**教員の働き方改革を進める**とともに、空間を活かして生徒と教員の間に新たなコミュニケーションを創出。

協力校

城南高校、富岡東高校、富岡西高校、海部高校、つるぎ高校、池田高校、美馬市内中学校

海部高校　国類型：人口減少地域における多様な学びの機会の確保

令和8年度9月補正予算額 210,847千円（事業計画額13.0億円）

学校全体の方向性

地域唯一の学校として、教育環境や住環境を整備することにより、学校の魅力向上による生徒数の維持増加を図るとともに、自ら学びを選択できる機会が得られることによる教育の質の確保を図る。

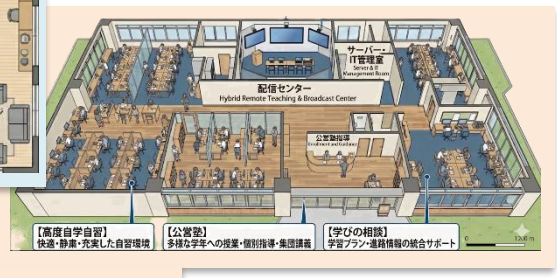
（主な取組内容）・地域課題に対し、オンラインを活用して県内外の大学や専門家の知見を掛け合わせ、海外校とも連携した探究学習を実施
・協力校からのハイレベルな授業を遠隔受信し、地方における教育資源不足を補完
・自学自習スペースを設け、大学生等を活用した放課後、長期休業中の学習支援を実施
・県内外から学生を獲得するため、学生が「何を学びたいか」を重視した「探究枠」入試の創設、柔軟な時間割や遠隔教育の導入検討

主な施設と具体的な学習内容

寮兼探究活動施設（探究ドミトリー）　新設

寮機能と交流スペースを備え、時差のある海外の学生とのオンライン交流等、曜日や時間に縛られない探究活動に対応。また、地域外からの学生受入に不可欠な住環境を整備。





探究用実習室・公営塾・遠隔・自習室（海部コモン）　新設

探究活動のための地域住民等との交流スペースや、自習室、公営塾のための設備、遠隔授業のための配受信機器を備える。地理的ハンデを克服し、高度な専門知識や進路指導にアクセスできる環境を構築。



探究型図書室（共創インテリジェンスハブ）　改修

既存の会議室、図書室を一体化し、書籍の閲覧と探究活動のための対話・協働ができる空間へと改修。
さらに、国内外の大学や協力校と接続して遠隔プレゼン大会等を実施できるICT機器を整備する。

協　力　校

脇町高校、那賀高校、池田高校、穴吹高校、城西高校神山校、海部郡内小中学校